

座間市制施行50周年記念市民提案事業

座間市教育委員会後援

# “人”でつづる 座間の50年史





## 目次

- 1・上之正治さん（座間少女マーチングバンド）
- 2・赤木みな子さん（手話サークル 星の会）
- 3・清水靖雄さん（ZAMAビッグバンドジャズオーケストラ）
- 4・関吉実治さん（さがみ野やすらぎ街づくり委員会）
- 5・内田憲子さん（アクティヴ・ママ）
- 6・近藤昭夫さん（大凧保存会）
- 7・古川修さん（まめこぞうの旅）
- 8・庄村邦子さん（ミナクルあすなろの家）
- 9・増茂邦雄さん（座間市おもちゃドクターの会）
- 10・高澤真奈美さん（親子体操）
- 11・天白位刀尾さん（新生さくら道の会・NPO法人さくら百華の道）
- 12・濱田政宏さん（特定非営利活動法人ざま災害ボランティアネットワーク）
- 13・梅井大輝さん（SC相模原）
- 14・内山浩司さん（ざまりんPAPA）
- 15・前田暖子さん（レインボーキャリア会）
- 16・矢野梢さん（IDEAコミュニティスクール）
- 17・熊切博美さん（座間子育て応援プロジェクト！）
- 18・稻垣美佳さん（NPO法人ざま野良猫を増やさない会）
- 19・小木直見さん（ケアコミュニティ座間のわっか）
- 20・小山理夫さん（シニア麻雀クラブ・座間）
- 21・三浦寧久さん（あすのち）
- 22・山本修子さん（座間神社）
- 23・佐藤弥斗さん（座間市長）
- 24～26・編集後記
- 27・主催団体紹介

## “人”でつづる座間の50年史 とは…

座間市制施行50年間（1971年～2021年）の中で起こった「good news」に関わった方（町の先生）にインタビューし、その内容をまとめた冊子です。また、町の先生のお話から得た学びをもとに、2022年2月26日ゆめの「学校」フェス（オンラインイベント）を企画開催しました。

なお、町の先生は、座間市HPや主催団体SNS等によって情報提供の呼びかけを行い、自薦他薦により情報を提供していただいた中から選出させていただきました。

# 1980年代

[座間市少女  
マーチングバンド設立]

## うえの まさはる 上之正治さん



座間市少女  
マーチングバンド

座間市少女マーチングバンドは、青少年健全育成を元に1986年に結成しました。小学1年～中学3年までの子ども達がマーチングに出会い目標を持ち互いに思いやり、経験できない絆づくりで楽しいと輝いています。年齢差を越えての絆づくり、学校も地域も異なる子ども達が出会う場を提供し目的を共有して互いに助け合う精神と、自立する心を育ててほしいと願い活動をしています。

### ◆この活動を始めたきっかけを教えて下さい

今から36年前、男子の習い事ではサッカーや野球、剣道や柔道、空手などたくさんありました。けれど、その頃、女子は活躍する場があまりありませんでした。私は音楽が仕事でしたので、子どもたちが夢中になれるものがあればいいなということで女子だけでこのチームをスタートしました。

### ◆活動をしていて、どんな時にやりがいを感じますか

やりがいは子どもが成長していくのを見ることです。小学一年生の子がいるんですけど、その子が中学校三年生になったらどのくらいのことができるようになるのだろうと想像します。最初は恥ずかしがっているんですけど、それが「ありがとうございました！！！」と言えるようになります。そして、太鼓も叩けたり楽器も上手になっていきます。今は、去年卒業した子が教えていて、上の人が面倒を見て、その子がまた面倒をみていっています。みんなで目標を一つにして頑張っている姿を見ることがやりがいです。

### ◆活動する中でこだわりはありますか

いい順位を取るとかじゃなくて今自分にできることをすることです。中学生は中学生、小学生は小学生で今できること目一杯やること

です。なので絶対「わたしはここまで。」という限度を決めない。「まだできる！！まだできる！！まだできる！！！」って。演技についてのこだわりは、中学二年生の踊りの子がどんな表情をすることができるのか、どんな踊りができるのかとか、今は踊りだけではなくて表情まで審査されるんですよ。ちょうど今やっている曲に嫉妬して小さな女の子に殴るシーンがあります。その時ニコニコしながらその子を殴ってはダメでしょう。そういうのはこだわっていますね。



### お問合せ先

#### ■電話：

090-4247-7154（中川）



# 1970年代

[手話サークル  
星の会設立]

## あかぎ みなこ 赤木 みな子さん



手話サークル  
星の会  
元代表

1974年に設立された手話サークル星の会は、手話学習を通じ、技術の習得を目的として活動しています。ろう者との交流を通じて、ろう者の言語である手話と文化を学び、手話通訳者育成の一助を担っています。聴覚障害者協会と協力し、市内の小・中学校の手話体験学習等での指導や福祉大会での憲章、標語の発表の際に協力、社会福祉協議会や利用施設での手話講座に協力をしています。年間計画表を作成し、社会見学・手話スピーチ大会・新年会・クリスマス会等の行事を予定して、ろう者との交流を目的に活動し、楽しい学習を目指しています。

### ◆この活動を始めたきっかけを教えて下さい

座間に転居してきた時に、広報誌に、夏休み親子手話講座というのが掲載されており、それに数回出席をしました。その続きでサークルに入会したのがきっかけです。

### ◆活動をしていて、どんな時にやりがいを感じますか

手話学習を通して、聴覚者障がい者との交流の中で、コミュニケーションを取れるようになります。子ども達との関わりで、手話を覚えて喜んでくれた時などにやりがいを感じます。

### ◆活動する中でこだわりはありますか

サークルメンバーは、ボランティア団体ということもあるのか、不思議に優しい人が集ってくれています。“温かい気持”は無くさないように、聴覚障がいの方の気持ちにも沿っていくことを常に心がけています。

### ◆活動をしていて、または人生で挫折した事は何ですか。そこで得た学びはありますか

挫折というか、夫を亡くした時のロス感が非常に大きかったです。それまで夫は色々な活動（手話、PTA等）を支えてくれていたので、もう今までのようにはできないのだなと思うとサークルも辞めたい気持ちにもなりました。でも、娘や大勢の友人の叱咤激励のお陰で、現在でも活動できています。人との絆の必要性や大切さが身に染みました。

### ◆活動されていて得た「学び」は何ですか 一生懸命、誠実にやっていれば、人は自分のことをみて、評価してくれるということです。

### ◆50年史の読者の皆様にひと言あればお願ひします

座間市制、50周年は一年一年の積み重ね。みんなの努力で発展してきたのだと思います。星の会もあと3年で50周年を迎えます。いままで、サークルに関わって下さった多くの方達の力の積み重ねだと感じています。この先も、穏やかに活動が出来る事を願っています。



### お問合せ先

■E-Mail：  
na.komama2960  
@icloud.com (赤木)



# 1990年代

[ZAMAビッグバンドジャズ  
オーケストラ結成]

## しみず やすお 清水 靖雄さん



Z A M A ビッグバンド  
ジャズオーケストラ

1997年に座間市在住、在勤のジャズ愛好家が中心になって結成されたアマチュアビッグバンドです。演奏活動として市内では、地区文化センター・公民館・コミセンなどの「各種イベント」、施設への「慰問演奏」、「ざまひまわりフェスタ」、「桜まつり」、「商店街のイベント」などがあります。市外では「横濱ジャズプロムナード」、「厚木ジャズ祭り」、「大山サマージャズ＆ラテンフレンドシップコンサート」などへの出演をしています。バンドのモットーは、「メンバーの和をもって地域貢献する」です。地元の方々に支えられてきたアマチュア市民バンドですので、定演はじめ、地域の様々なイベント、養護施設や高齢者施設などの演奏活動を通して、地域文化の向上に一役かえればいいな、と考え活動しています。

◆この活動を始めたきっかけを教えて下さい  
地域の多くの方々にジャズに親しみ、楽しんでいただければとの思いでこの活動を始めました。

◆活動の中で座間とはどんな関わりがありますか  
地域のイベント（かにが沢公園さくらまつり、さがみ野さくらまつり、公民館まつり、各コミセンのイベント、祭、フェスティバル）、施設への慰問、自主公演（ハーモニーホール座間大ホールでの定期コンサート・約1,000人集客）、文化センターでの「ジャズの楽しみ方」、市役所食堂での「チャリティークリスマスコンサート」などの関わりがあります。

◆活動をしていて、どんな時にやりがいを感じますか  
コンサートを終え、コンサートを聴いて頂いた方から「仕事や介護、友人関係などで悩んでいましたが、今日のコンサートを聴いて、明日からまた頑張るぞとの思いになりました、ありがとうございます。」などの声をコンサート後のアンケートなどで聞いた時などやりがいを感じます。

◆活動する中でこだわりはありますか  
チケットが安価であることです。より多くの方に親しみ楽しんで頂きたく、25年前からチケット1,000円です。

◆活動をしていて、または人生で挫折した事は何ですか。そこで得た学びはありますか  
ひと言で言うと、我慢より感謝！！ですね。

◆活動されていて得た「学び」は何ですか  
人生の中で一番大切にしていることでもありますが、「感謝」「おせっかい」です。

◆50年史の読者の皆様にひと言あればお願いします  
座間市で、文化都市を推し進めましょう。



### お問合せ先

■住所：〒252-0004  
座間市東原1-10-19  
■電話：046-254-1328



# 1990年代

[さがみ野やすらぎ  
街づくり委員会設立]



## せきよし じつじ 関吉 実治 さん

さがみ野  
やすらぎ街づくり委員会

さがみ野やすらぎ街づくり委員会は1998年に設立されました。住むことに誇りをもてる街づくりを目的にさがみ野駅北口の環境美化を行っています。主には、ストリートガーデンの維持管理、街のガーデン「花壇30か所の維持管理」、赤い向日葵プロジェクトを推進しています。2014年に全国花の街づくりコンクール団体部門大賞である農林水産大臣賞、2017年には緑化推進功労者内閣総理大臣賞の受賞をしました。

### ◆この活動を始めたきっかけを教えて下さい

座間の商店街をどのようにしようかということで、花いっぱいの街づくりにすることに決まって、さがみ野やすらぎ街づくり委員会を設置してそれから活動を始めました。

### ◆活動をしていて、どんな時にやりがいを感じますか

この地域の人たちが「街がきれいになったね」と言ってくれることがうれしいです。自分がやったことがすぐに反映されることはやりがいですね。

### ◆活動をしていて、どんな時が幸せか教えて下さい

いつもきれいにお花が咲いていることがとても幸せです。あと、以前、ラーメンを食べに行つたのですが、会計し終わったら、後ろの方から女の子がやってきて「私、一緒に向日葵を植えたんです！」と言ってくれたことですね。とても嬉しかったです。また、昨年、向日葵のぬりえを描いて応募するというどこかの企画があったのですが、孫が向日葵を赤く塗っていました。三歳の孫が赤い向日葵を認識してくれたという事が感動ですね。

### ◆今後どういった活動を展開していくなど、予定はありますか

ボランティアの活動をしてくれる人が増えてきたので、その人達をまとめて大きな組織というものを作りたいなと思っています。

### ◆活動されていて得た「学び」は何ですか

自分がとにかく一生懸命にやっていれば、自然と仲間が増えていくということです。これを見たら何かもらえるとか、あれをしたら得になるとかではなくて、好きなことを突き詰めてやっていれば、その好きなことに対して人が自然に集まってくるし、そういう考え方にも賛同してくれる人たちが自然と集まってくれる。だから色々な事が出来たんだと思います。



### お問合せ先

#### ■電話：

080-4667-0521 (関吉)

#### ■E-Mail：

info@camcam.co.jp



# 2000年代

[アクティヴ・ママ発足]

## うちだ のりこ 内田 憲子 さん

アクティヴ・ママ  
初代代表



座間市にまだ子育て支援センターがなかった2000年に「子連れで集まれる場所を自分で作ろう！」とママたちの手で発足した団体です。「自分の子育てを充実させ、みんなの子育ても応援したい」というメンバーの熱意で、世代交代をしながら運営を継続しています。現在は、子育てサロンの開催、「アクティヴ通信」の発行のほか、英語ばっけの会、ひだまりしつぶ（主に外国にルーツのある子の学習支援）、TOMODACHI SALON（多国籍親子支援事業）、パパ会などの活動を通して、皆さんの子育てを応援しています。

### ◆この活動を始めたきっかけを教えて下さい

座間に引越してきて、気が合いそうな子育て中のママとの出会い方がわかりませんでした。当時は子育て支援センターもなく、子どもと一緒に出かける場所がない、座間市の子育て情報が知りたい、などなど自分自身悩んでいました。公民館講座「母と子が共に育つ教室」に参加し、参加10回連続講座が終了に近づき、せっかく知り合えたママ友と、子育て以外の話も出来なくなりました。また自分の出かけられる場所がなくなり、家・スーパー・公園のトライアングル生活を、子どもと一緒に過ごすだけという孤独感がありました。

そのような自分自身の体験が、アクティヴ・ママ設立のきっかけになりました。

### ◆活動されていて得た「学び」は何ですか

出会った人の長所を尊重することです。悩んだら、悩んでいる事を色々な人に伝えます。声にして伝えれば、同じ思いをしている人がいる事。そこから、仲間に出会い、同じ立場にいる人と話す事で、自分だけが悩んでいたわけではない事に気がつき、心の居場所がみつかりました。子育ては、子どもを通して、いろいろな学びや出会いを与えてくれる「育自」でもある事に気がつくことができました。

### ◆座間で活動していくよかったですありますか

活動当初、「何もないなら作っちゃおう」と声を上げたら、多くの市職員、ボランティア団体さんが賛同、協力してくれました。小さな市だからこそ声を届けやすいと思いますし、前例がないからこそ、他の市で行っていく事をまずは真似て、そこから自分達のやり方にしていく事ができました。



### お問合せ先

#### ■事務所：

〒252-0029  
座間市入谷 2-20-15  
ひだまりの家

#### ■E-Mail：

active\_mama\_zama@yahoo.co.jp



# 1960年代

[大凧まつり]

## こんどう あきお 近藤 昭夫さん



座間市新田宿在住  
座間市大凧保存会  
会長

座間の大凧揚げは約200年の歴史をもちます。大凧揚げが行われるようになったのは、江戸時代の文化・文政年間（1804～1830）で、端午の節句（現在の子どもの日）を祝う行事として始められました。初めは大きさが3mから4mくらいで、新田宿・四ッ谷・座間・栗原などの地域の家々で行われていました。しかし、時代とともに凧が大きくなり、地域の青年たちが協力して作り、揚げるようになりました。現在の大きさになったのは明治時代からです。昭和に入り少しづつ家が増え、電柱が立ち並んでくると、凧を揚げる場所に困るようになりました。こうしたことから昭和40年代には全市をあげて、一ヵ所で行われるようになりました。平成13年（2001年）には、座間市制30周年を記念して、18.65メートル四方、約2トン、210畳敷きの日本一大凧がつくられました。現在では、「座間市大凧保存会」による大凧揚げが伝承されています。

### ◆この活動を始めたきっかけを教えて下さい

大凧は座間市にとって200年以上前から伝統的な歴史があります。ある時、大凧の責任者から「大凧保存会に入つてもらえないか。」と誘われて、腰掛程度に迷惑がかからないようにやらせていただこうと思い、入会したのがきっかけです。それまでは、大凧を作ったことがありませんでした。

### ◆活動の中で、座間とはどんな関わりがありますか

大凧は座間そのもの。200年以上前に、子どもが生まれたのを祝う「祝い凧」として作られたのがきっかけです。その時は、そんなに大きな凧ではなかった。歴史の流れの中で、戦争の影響などもあり中断されたこともありました。終戦後に、「戦後社会復興を願う」という想いで青年団が大凧を再開させました。当時は田んぼで揚げていたのですが、だんだん座間の町が栄えてきて、大きな建物が建ってくると凧を揚げる場所が少なくなり、それぞれの場所で揚げていたのを一本化しようということになり、大凧保存会が立ち上りました。座間市の30周年記念の時には210畳の大凧を揚げました。

### ◆活動する中でこだわりはありますか

正確に作ること、手を抜かないということ。正確に作らないと、凧は揚がらないので、マニュアルなどもつくりました。それから凧文字。上の赤が太陽、下の緑が大地を表しています。凧文字は、凧の中に全部入れちゃうとこじんまりしちゃうんです。なので、凧文字は少しはみ出ているんです。

### ◆活動をしていて、どんな時が幸せか教えて下さい

みんなで力を合わせて作業していくというのがいいなと思いますね。一つ一つ大変な作業があるので、大勢の人たちの協力が必要なんです。みんなの協力で、大凧が出来て良かったなど。

### ◆人生で一番大切にしていることは何ですか

"笑顔"です。笑顔でありがとう、これが言えるといいですね。



### お問合せ先

#### ■電話：

090-5409-9306 (近藤)

#### ■座間市HP 大凧まつり



# 2000年代

[まめこぞうの旅]

ふるかわ おさむ

## 古川 修 さん



まめこぞうの旅著者  
座間市文化財調査員

座間の情報を発信するインターネットサイト「0462.net」で『まめこぞうの旅 座間の歴史探検』を連載中。自分のことを“まめこぞう”と言いながら、新しい情報を書き加えています。サイト内の閲覧者コメント欄にてご意見を募集しています。まだまだ多くのことを調査しています。

### ◆この活動を始めたきっかけを教えて下さい

子供の頃から歴史が好きで、小学5年生の頃から本を見ながら町中を走り回り、写真を撮って記録を取るというようなことをしていました。教師になってから、市内めぐりをする時どこを回るかという資料がなかったので、自力で資料を作ってみようと思い、数年かけて『まめこぞうの旅』という本を作りました。時々授業で生徒に紹介していたら、保護者から「座間市のポータルサイトを立ち上げるにあたり、『まめこぞうの旅』を連載してもらえないか」とお声がけいただき、載せてもらうことにしました。

### ◆活動する中でこだわりはありますか

今残っている石像物も、どんどん風化して剥がれ落ちて、全く字が読めない、顔も分からぬようなものになってしまないので、今のうちに記録を取って残しておきたい。記録さえ残しておけば、後世の人がそれを元に色々な調査を出来るかもしれない。その記録を、できる限り本物そっくりに、縦横の比、字の形など再現した、完璧な状態で残したい。

### ◆活動されていて得た「学び」は何ですか

意外と歴史は解明されていない。知っているよと言ってくれる人が、実は正確ではなかったり。

そうに決まっているというような思い込みで、歴史は書かれてしまうんだな、世の中はそういうことで動いているんだなとわかったことです。

### ◆座間のいいなと思うところを教えて下さい

座間は小田急、相鉄、JR相鉄線に囲まれてどこでも駅に出やすく、道路も集中しないので生活しやすいのだと思います。市全体としては特別お金持ちではないけれど、明日をいう子を育てるためには多くの予算を回していくだけしているところがすごいですね。『まめこぞうの旅』を見て、座間っていいまちだなと思ってくれたら、それをきっかけに座間をもっとよくしていこうと子どもたちが動いてくれるようになることを望んでいます。



転載元：<https://www.0462.net/blog/mamekozo/index.html?page=40572>

### お問合せ先

■HP：コメント欄



# 2000年代

[あすなろの家開所]

## しょうむらくにこ 庄村 邦子さん



ミナクルあすなろの家

不登校児童・生徒やひきこもりの青少年達やその家族が安心して活動が出来る居場所作りをして支援しています。基本的な生活習慣や学習をして異世代間とのコミュニケーションをとり、社会参加へと繋がっていけるように支援。

不登校児とひきこもりの青少年の人たち、家族及び関係者（概ね40歳代まで）を対象に、パソコン、料理、会食、談話、ゲーム、自由探索（相模川や周囲の田んぼ、谷戸山公園）、スポーツ（卓球）の活動を行っています。

### ◆この活動を始めたきっかけを教えて下さい

この事業を始める頃から不登校児童や、ひきこもりの青少年が増えてきたことに危機感を感じた事がきっかけとなりました。

### ◆活動をしていて、どんな時にやりがいを感じますか

あすなろに来た子ども達が明るく元気を取り戻していく様子を見た時やりがいを感じます。

### ◆活動する中でこだわりはありますか

あすなろの活動は、居場所として、学習だけではなくいろいろな生活経験を通して自己肯定感を培っていく事で、生きる力を持って欲しいと思っています。

### ◆活動をしていて、または人生で挫折した事は何ですか。そこで得た学びはありますか

この事業を続けていくにあたり、紆余曲折がありました。開設初期の頃は市民の皆様に不登校を理解して頂く事や、教育委員会との交流にも難しい問題がありましたが、その為には地道に活動を続けていく事で理解を深めていく事が大切だと感じました。

教育委員会とは、うどん打ち会、餅つき会、スポーツ会等を実施していく事で交流を深めていきました。また、受験生の為に面接練習を教育委員会や、市の福祉部の職員さんにも協力して頂きました。この事で交流がより広がり、相互の理解度が深まりました。

### ◆座間で活動していてよかったなと思う事はありますか

この事業を続けてきて、何と言っても場所を無償で提供して頂けたのは感謝です。そして、子ども達に出会えたことで私達スタッフも成長したと思います。また、そのスタッフも無償ボランティアでこの事業を支えてくれました。



### お問合せ先

座間市社会福祉協議会ボランティアセンター

■電話：046-266-2002

あすなろの家（火・木曜日10～15時）

■電話：046-254-2005



# 2000年代

[おもちゃ病院開催と会の設立]

ますも くにお

## 増茂 邦雄さん



座間市おもちゃ  
ドクターの会

2006年に座間で最初のおもちゃ病院開催と会の設立が行われました。公民館など市内5施設で毎月2～3回おもちゃ病院を開催し、おもちゃの無料修理を行っています。（部品代のみ実費徴収）その場で治らないものは持ち帰って（入院）修理することもあります。青少年センターにて月に1回小中学生の会員と理科工作クラブ活動も行っています。おもちゃの修理を通じて子どもたちの「ものを大切にする心」「科学的に考える力」を育みたいと考えています。またドクターとして活躍するシニアにとっては経験・知識を活かせる生きがい創造の場ともなっています。

### ◆この活動を始めたきっかけを教えて下さい

息子が学童保育を卒業し父母会役員としての運営の負担から解放されたときにたまたま書店で「おもちゃドクター入門」という本を見かけ、近所（当時は横浜市在住）のおもちゃ病院に弟子入りしました。その後、出生地の座間市に転居、北地区文化センターに相談し第1回おもちゃ病院開催の運びとなりました。

### ◆活動をしていて、どんな時にやりがいを感じますか

おもちゃ病院以外にも工作や実験などのおもちゃドクターの会だからできると思えるような活動ができたときです。

### ◆活動する中でこだわりはありますか

おもちゃ修理は我々にとっては楽しいことですが、修理自体が目的ではなく、子どもたちのための活動となるよう心掛けています。

### ◆活動をしていて、どんな時が幸せか教えて下さい

おもちゃが治って喜んでもらえたときです。子どもたちがおもちゃや工作のしくみに興味深々の様子を見るときが幸せです。

### ◆活動をしていて、または人生で挫折した事は何ですか。そこで得た学びはありますか

会の活動でうまくいかないことは多々ありますが、挫折とまで考えたことはありません。別のことについてトライするだけです。

### ◆人生で一番大切にしていることは何ですか

バランス。いろいろな考え方を聞いて偏らない、自分として納得できる立ち位置を作りたいです。

### ◆活動されていて得た「学び」は何ですか

いろいろなお誘いをなるべく断らずにチャレンジしていくと自然と活動の幅が広がっていき、さらに声がかかる機会が増えていくということです。



### お問合せ先

■E-Mail：  
[masumo@ja2.so-net.ne.jp](mailto:masumo@ja2.so-net.ne.jp)



# 2000年代

[親子体操設立]

## たかさわ まなみ 高澤 真奈美さん



親子体操は、2006年5月に立ち上がり今年で16年になりました。レッスン内容は、元気に挨拶・お返事→アンパンマン体操→ストレッチ→手押し車→かけっこ→平均台とマット運動→ボール拾い→絵本の読み聞かせをしています。全てが上手にできたから良い！ではなく、1つだけでも出来たら褒めるのがモットーです。また、写真に残すだけではなく、レッスンに来ている子どものお母様が実際にしっかり見て褒めてあげる事を心掛け活動しています。子どもの笑顔を原動力に活動しています。

◆この活動を始めたきっかけを教えて下さい  
次男が幼稚園に入る前に習い事をさせたいなど思い、色々なところに行つたのですが、自分が習わせたいと思うものがなかったんです。そこで、お母さんと一緒に体を動かす体操をやろうということになり、お友達と一緒に始めました。

◆活動をしていて、どんな時にやりがいを感じますか  
親子体操の卒業生が、サッカーだったり野球だったり、バスケットボールなどで色々と活躍している情報を聞くんです。幼稚園に入る前に体を動かすことをしていて、動くことが好きということが分かってもらえたなと思うと、やってよかったなと思います。私たちが今やっていることが、子どもの成長にとってすごくいいことだな、必要だなと感じます。

◆活動する中でこだわりはありますか

クリスマス会や豆まき、卒業式など、イベントを三学期制でやっています。一番のこだわりは、お母さんが親子体操教室に子どものために連れてくるということが偉いことだと思うので、私はそれをまず一番最初に褒めます。お母さんたちに「雨の中、頑張って来たね」というように最初に褒めて、その後に子どもたちにも「頑張ったね」「偉いね」と褒めています。お母さん、次は子どもという順番で褒めることを心がけています。

◆活動をしていて、どんな時が幸せか教えて下さい

大ホールで端から端までかけっこをする時、お母さんの元から私の元へみんな笑顔で走ってきてくれるんです。あと、小さい赤ちゃんを抱っこすると寝てくれるんです。そういう時にすごく幸せを感じます。もう一つは、絵本を読む時、子どもたちがお母さんと離れて私の絵本読みに集中して目をきらきらさせて聞いているところを見ると、「あ…幸せだなあ……」って思います。家である幸せと、また別の幸せがあって、ダブルで幸せを感じています。



お問合せ先

■電話：090-2558-3289

# 2000年代

[新生さくら道の会設立]

## てんぱく いとお 天白 位刀尾さん



座間市相模が丘在住  
新生さくら道の会  
NPO法人さくら百華の道

小田急線小田急相模原駅徒歩約10分の相模が丘仲よし小道は、「桜百華の道（さくらひやっかのみち）」と呼ばれています。老木となった桜並木を、座間市と市民が協働で整備した緑道です。完成後も、市民がボランティアで整備などに携わっています。全長1.6kmに約64品種220本の様々なサクラを植え、3カ月にわたり、サクラが楽しめます。車の通らない安心・安全な道で犬の散歩やウォーキングなど散策に最適な道として多くの方が訪れます。

### ◆この活動を始めたきっかけを教えて下さい

ひどい道だったからです。染井吉野と隣接する家に枯れ葉やシロアリが入っていき、老木になると隣接するお宅に台風の時に倒れたりしました。また大木になるからカラスが巣をつくるはスズメバチがくるはで、季節ごとに「染井吉野めいわく」って呼ばれていました。

### ◆活動をしていて、または人生で挫折したことは何ですか。そこから得た学びはありますか

挫折したことはあまりないです。むしろ、その逆。やっぱり、為せば成ると思う。必ず捨てる神あれば拾う神ありで、同志はいる。

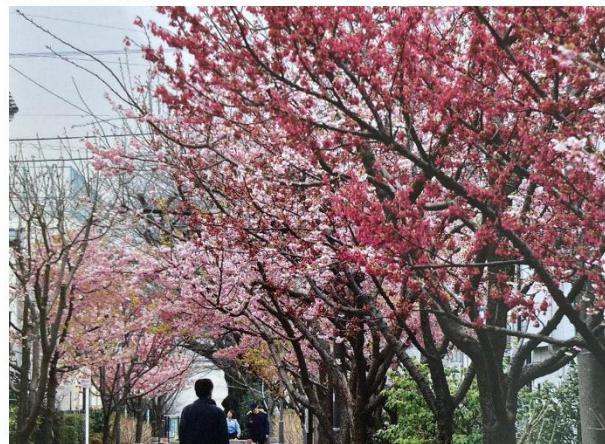
この活動のテーマは「美しい花街道をつくろう」だから、反対する人は基本的にいませんね。清掃業務をしていると、必ずご苦労様って言ってくれるし、よくここを利用してくれる人は笑顔で挨拶してくれます。ある時は、作業している時に、たくさんの中のミカンを持ってきてくれました。

### ◆活動する中でこだわりはありますか

特にこだわったのが、子どもたちのことです。子どもたちは、この地をもって何をふるさとだと思うのだろうか、と考えるんですよ。一番考えていることはそれです。子どもたちに豊かなふるさとの思い出を。

そして、自然環境・社会環境の潤いを次世代へ。安全・安心で綺麗な緑道が生活のインフラだと僕は思います。

◆人生で一番大切にしていることは何ですか  
やっぱり人ですね。絶対一人では生きていけないから、良好な人間関係なくして人生って豊かになることはない。だから人間は社会的存在である以上、共生なくしてありえないと思います。



### お問合せ先

理事長 飛田 昭 090-3008-7968  
会長 石川 正治 090-5574-0910  
企画担当 天白位刀尾 090-8682-1218

# 2000年代

[特定非営利活動法人  
ざま災害ボランティア  
ネットワーク設立]



## はまだ まさひろ 濱田 政宏 さん

特定非営利活動法人  
ざま災害ボランティア  
ネットワーク

ボランティア団体と危機管理課と協働して「市民減災・災害対応啓発事業」、「避難所運営委員会設置事業」、「座間市いっせい防災行動訓練（シェイクアウト訓練）」など実施。自主事業として、「危機管理」という範囲で、子育て防災、子ども防災、障がい者に対する「危機管理啓発活動」を行っています。（まちなか防災塾）（本気防災そなえ亭）

◆この活動を始めたきっかけを教えて下さい  
災害を通じて市民の同志の意見を行政に届け、行政とともに支援力・受援力を高める想いを実現したかったのでこの活動を始めました。

◆活動をしていて、どんな時にやりがいを感じますか  
セミナーで提唱したことを見た時にやりがいを感じます。

◆活動する中でこだわりはありますか  
「災害は忘れないうちにやってくる」、座間市の災害対策のキーワードは「生き残らなければ何も始まらない」（当団体が提唱）です。座間市で災害時に市民が取り組む行動「死ない！、ケガをしない！、火事を出さない」を小学生から高校生、地域住民の方々へ伝えることが最大のこだわりです。

◆活動をしていて、どんな時が幸せか教えて下さい  
セミナーや、訓練で私たちが提唱したことが具現化した時です。

◆活動されていて得た「学び」は何ですか  
「できることを、できるときに、できるだけ」の精神を団体運営を通じて行動化できたことが学びです。

◆50年史の読者の皆様にひと言あればお願ひします

災害国日本に生まれてしまったことも「運命」だと思って、日々の減災活動に取り組んで欲しいです。何の行動でも、1年交代で「こと」を済ませる活動は、結局は、無いに等しいこと思って欲しいです。地域を守ることができる人はその地域に住む権利者であり、報酬を期待しないで活動を行う。あなたが培った「知識・技能」をあなたの周囲の人に伝えられる人になっていただきたいです。

### 【PR】

【PR】災害対応「がわがし家庭を守る

NPO法人災害ボランティアネットワークは災害時に、被災者が自分の安全を確保しながら、家族の安全を守るために、立派にやったのかと連絡市町村へ報告する「がわがし家庭を守る」活動を行っています。

そのため、自ら活動の輪を広げて、市内

の消防署、警察署、市役所、市立小・中学校

などの公共施設や、各団体、団体、企業、団体などに活動の拠点をお手伝いしています。

毎月1回の「避難とオフィスアドバイス」には、座間駅近くの商業施設で「ぼさりきフェス」を開催し、多くの方々がコーヒーを飲みながら市民の防災知識を学ぶことができます。

1月23日㈯は座間市立幼稚園「座間市いっせい防災行動訓練（シェイクアウト訓練）」

2019年5月6日㈯は座間市立幼稚園「ぼさりきフェス」を開催しました。2月23日㈯は、座間市立幼稚園「ぼさりきフェス」を行いました。この活動を支援しています。

市町のみなさまの参加をお待ちしています。

### 【PR】

【PR】座間市いっせい防災行動訓練

【PR】シエイクアウト訓練 in ZAMAは

【PR】座間市との協働事業で行われています。

【PR】（市民防災委員会事業）

【PR】座間市立幼稚園（2019年度）

【PR】体操型 運動・災害対応訓練

【PR】サマーボランティア災害対応講座

【PR】SLJ灾害教援ボランティア講座など



### 【PR】

【PR】ざま災害ボランティアネットワーク

【PR】ホームページ: <https://zvn.net/>

【PR】マガジン「ボランティア」

【PR】お問い合わせ

【PR】メール: zama.saihai@gmail.com

### 【PR】

【PR】ざま災害ボランティアネットワーク

【PR】入会のご案内

【PR】「生き残らないければ  
何も始まらない」



【PR】できることを  
できるときに  
できるだけ

【PR】お問い合わせ

【PR】ZVN サマーボランティアネットワーク

【PR】ホームページ: <http://www.zvn.net/>

【PR】お問い合わせ

# 2000年代

[SC相模原創設]

うめい だいき

## 梅井 大輝 さん



SC相模原  
ポジション：ディフェンダー  
(2021年12月インタビュー時)

2008年に神奈川県社会人リーグ3部のクラブとして創設。神奈川県の相模原市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町をホームタウンとしています。地域貢献活動に取り組んでおり、2021年7月にSDGsの達成に向けて相模原市と共に取り組む『さがみはらSDGsパートナー』に登録されました。

※『Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)』の略称

### ◆この活動を始めたきっかけを教えて下さい

小さい頃、Jリーグが開幕し、サッカーブームが来た時代で、Jリーグに憧れてお兄ちゃんと一緒にサッカーを始めました。

### ◆活動する中でこだわりはありますか

絶対に手を抜かず、100%で毎日練習も試合もやるということ。選手が30人以上いる中で、試合に出るのが11人だけなので、試合に出られない時も、しっかり自分と向き合って、誰かのせいにしたりしないよう、自分に矢印を向けて、今できることをやり続けるというところは意識しています。

### ◆人生で一番大切にしていることは何ですか

後悔しないように生きる。上手くいかない時に誰かのせいにしたり、環境のせいにしたりすると後悔してしまうので、上手くいかない時は、自分と向き合って生きていくということを一番大事にしています。

### ◆活動をしていて、どんな時が幸せか教えて下さい

試合に勝った時、選手とサポーターが一緒になって、喜びあったり、嬉しい気持ちを分かち合える時が一番幸せです。

### ◆活動されていて得た「学び」は何ですか

自分が小さい頃思い描いていたサッカー選手というのは、華やかな印象だったのですが、プロってこんなに厳しいんだということが分かりました。色々な人に応援してもらう経験をして、人間ひとりじゃ生きていけないんだなということも改めて思いました。人から貢うパワーはすごい力になるので、自分に関わってくれた人を大事にして生きていきたいなと思いました。



©S.C.SAGAMIHARA

### お問合せ先

■住所：〒252-0231

相模原市中央区相模原  
5-1-19 SC相模原



# 2010年代

[ざまりん誕生]



## うちやま こうじ 内山 浩司 さん

株式会社フリップアップ  
代表取締役  
ざまりんPAPA

広告の企画・制作・印刷を行う株式会社フリップアップ代表取締役。2011年に誕生した、座間市マスコットキャラクター「ざまりん」の作者。ざまりんは座間市のキャラクターコンテスト部門の公募で受賞をし、座間市のマスコットキャラクターとなりました。ざまりんは55万本咲くひまわり畑で生まれたひまわりの妖精で、ぽっこりお腹には、夢と希望の種がいっぱい詰まっているので、お腹をタッチするといいことがあるかも♪と座間市民に老若男女に愛されています。

### ◆ざまりんのイラストをデザインしたきっかけを教えて下さい

子どもの頃からデザインやお絵描きが好きで、印刷会社で営業をしていたのですが、12年くらい仕事を続けたのち、独立して今の会社を立ち上げました。ある時、観光協会主催のキャラクター公募があるのを知り、応募させていただき、市民投票で選んでいただきました。

### ◆ざまりんをデザインする時のこだわりはありますか

「可愛らしさ」と「元気らしさ」です。元気な妖精を表現したいという気持ちがありました。座間の子どもたちがキャラクターを好きになって、子どもたちが成長して親になった時にその子どもに教えるというサイクルが出来たらいいなと思っているので、子どもたちに好きになって貰えるようなキャラクターでいてくれたらと思っています。

### ◆活動をしていて、幸せなことは何ですか

その都度の感情に対応していくてもブレてしまうので、お客様のその時々の言葉や反応より、少し後の結果や反響を見て、第三者の方から褒められたというのが嬉しいです。響いて返ってくるものがあると幸せですね。

### ◆座間のいいなと思うところを教えて下さい

ほっこりした感じで、優しげな人間関係や、ゆったりしてる感じがいいです。人間として懐があるというか。あと、前から住んでいる方は分からぬかも知れませんけど、地下水が本当に美味しいんですよ。

### ◆人生で一番大切にしていることは何ですか

自分が関わることで、何かを良くしたいです。あとは、自分の手の届く人には幸せになってもらいたい。



座間市ざまりんHP



### お問合せ先

■Twitter : @ZamarinPapa

# 2010年代

[レインボーキャリア設立]

## まえだ はるこ 前田 暖子 さん

レインボーキャリア会  
代表 精神保健福祉士



レインボーキャリア会は、神奈川県で開催している精神障害者のセルフヘルプグループです。座間会場と横浜会場に分かれて活動しています。座間会場では、男女混合グループと女性グループとピアソーター勉強会を開催しています。横浜会場は女性グループのみの会を開催しています。参加者の特有の心身の悩みをみんなで話して、ご自身が悩みを持っていても生活を乗り切る工夫を見つけていく対話が出来て楽しい会といわれるよう心がけております。レインボーキャリア会のこと詳しく知りたいと興味関心を持ってくださった方は、ぜひメッセージをお寄せください。

### ◆この活動を始めたきっかけを教えて下さい

精神障害者が安心して話したいことを話せる場を提供し、リカバリーのプロセスにいることを感じるところが必要だと思ったから。

### ◆活動をしていて、どんな時にやりがいを感じますか

障害を持つ仲間が話しているときに、聴いてくれてありがとうと言われたときや、仲間と話していく、何か良い変化の兆しを感じた時やりがいを感じます。

### ◆座間で活動していてよかったなと思う事はありますか

座間でたくさんの知り合いができる、孤独感が減ったと思うところです。

### ◆人生で一番大切にしていることは何ですか

心身が健康で規則正しい生活を送れること



### ◆活動する中でこだわりはありますか

丁寧に話を聞くことと、その人のためになる情報やワークを提供していること

### ◆活動されていて得た「学び」は何ですか

場を提供することで、人と人が出会い、話を始めることをきっかけに、いきいきとした生活ができる学びました。

#### お問合せ先

■E-Mail :  
inforainbowcareers  
@gmail.com



# 2010年代

[IDEA設立]

## やの こずえ 矢野 梢さん



座間市南栗原在住  
IDEAコミュニティスクール  
代表

2013年に任意団体「IDEA education（イデアエデュケーション）」を設立し、不登校の子どもたちやその家族をサポートする活動を開始しました。2015年より不登校の子どもたちの学びの場を神奈川県大和市に開室。2018年に、座間市東原に移転し「IDEAコミュニティスクール」として開校。1人1人にとっての「理想の教育」を探求・実践することを理念とし、多様な学びを深める活動をしています。

### ◆この活動を始めたきっかけを教えて下さい

大学卒業後に、不登校経験がある生徒が8割という私立高校（技能連携校）で教員として勤めた経験がきっかけです。子どもたちやその保護者と関わり合い、向き合っていくなかで、不登校という状態にある子どもたちがもつ才能や能力を伸ばす教育を探求したいという気持ちを持つようになりました。その後、出産を機にその学校は退職したのですが、子育てをしながらでもできることから、少しずつこの活動を始めました。スタートした頃は、勉強会や単発のイベントなどを中心に活動していました。

### ◆活動していて、どんな時にやりがいを感じますか

関わる子どもたちが、自分で自分の道を1歩でも踏み出した時です。その子によって、どんな道のどんな1歩を踏み出すかは全く違うと思います。例えば、友だちに声をかけてみる、今日は学校を休むと親に伝えてみる、来月から教室に行ってみるといったように。その「1歩踏み出す」というチャレンジをする姿を見た時、とても嬉しいし、この活動をやっていてよかったですって思います。もし、そのチャレンジがうまくいかなかったとしても、それをもとにまた違う道を探すことができるから、大きな1歩であることに間違いないと思っています。

### ◆活動されていて得た「学び」は何ですか

「人事を尽くして天命を待つ」という言葉を体感することがよくあります。大きなイベントでも、日々の子どもたちとの関わりでも、何かしようと思った時には、それに関わる人がいて、その人にも意志があるので自分の思い通りにはいかないし、思い通りにしようとすればいけないということを学びました。でも、自分がやるべきことはちゃんとやらないと、うまくいかないんだなあと思うこともありました。神様はお見通しなんだろうなって。自分にできることには限りがあるのと同時に、自分ができる最大限のことをやりきった時、初めて何かが動いたり、形になったりするということを経験から学びましたね。



### お問合せ先

■住所：〒252-0004  
神奈川県座間市東原4-20-5  
■E-Mail：  
[idea7edu@gmail.com](mailto:idea7edu@gmail.com)



# 2010年代

[座間子育て応援  
プロジェクト！設立]



## くまきり ひろみ 熊切 博美 さん

座間市入谷西在住  
座間子育て  
応援プロジェクト！

座間市での子育てがより楽しくなるような情報発信やイベントの企画運営をするボランティア団体です。子育て中のママを中心としたメンバーで、子連れでの活動ができます。活動は、①子育てイベントや講座の企画、運営②インターネットでの子育て情報の配信③地域のつながりづくりなどを行い、子育てに関わるたくさんの方をサポートすることで地域を元気にしています。

### ◆活動をしていて、どんな時が幸せか教えて下さい

「今日講座受けてよかったです！」とか「すごい楽しかったです！」とか実際に先生と講座を受けた人が繋がったときとかです。「こういう人さがしていたんです！！」みたいな。だから「子育ての先輩と繋がれて私幸せなんです！」って言われたら、もう完全に幸せです。でも最終的に繋がれる人はあまり多くはないんです。けど、求めている人が繋がれるようにするはどうしたらいいんだろうなっていうのはもう日々考えているんですけど。未だに答えは出ません。とにかく人と人とが繋がれた時が見えた時が幸せです。

### ◆座間市民として座間市のいいなと思うところはありますか

人が優しいことですね。子どもを連れて歩いていたら、すぐ声をかけてくれることは優しいなって思いました。また、座間市を地図帳で見ると丸っこいんですよ。ほかの市では細長かったりして南と北で分断されていて結構大変なんですよ。座間市も地区とかいろいろあると思うんですけど、丸い形しているのは大事だと思います。以前、私は縦長の市の南側で働いていたんです。でも役所関係は北側にあるんですよ。もう行くのが大変で。座間市はそういうことでは恵まれているなと思います。あと自然もたくさんあるということですね。

### ◆今後どういった活動を展開していくなど、予定はありますか

今現在行っているのはインターネットによる情報発信が一つと、イベントや講座を通して生きた子育て情報をママたちに直接お話しするのがメインの活動で、この二つを使ってもっとたくさんの方にお届けできるような体制を作っているところです。市役所と一緒に話し合ったりする部分もこれから必要なんんですけど、まずこれを広げていくことですね。とにかくたくさんの人達にたくさんの情報を届けるようなことを準備していきたいなと思っています。



### お問合せ先

- 電話：080-4107-2017
- E-Mail：zamakop2017@gmail.com



# 2010年代

[NPO法人  
ざま野良猫を増やさない会  
(ざまねこ)  
設立]



## いながき みか 稻垣 美佳 さん

NPO法人  
ざま野良猫を増やさない会  
(ざまねこ)  
代表

2017年5月22日に設立。座間市を中心に、野良猫を捕獲し避妊・去勢手術を行い、元いた場所に戻すTNR活動を行っています。人馴れしている成猫や子猫はSNSを使って里親探しを行います。令和3年度、譲渡会やパネル展を開催。座間市市制施行50周年記念事業まちづくり大賞で大賞を受賞しました。  
※TNR(Trap・Neuter・Return)

### ◆この活動を始めたきっかけを教えて下さい

元々、自宅の近所にいた野良猫達に餌をあげていて、その時に避妊と去勢をしないと増えるということを知り、自分で捕獲器を買ったり、元々この活動をしていた人の話を聞いたりして始めたのがきっかけです。同じように近所の猫を保護したりしていた友人に声をかけたところ、一番の協力者になってくれてざまねこを立ち上げる事ができました。

◆活動をしていて、どんな時にやりがいを感じますか  
保護した猫を里親さんのところに譲渡できて、里親さんも猫も幸せになっている姿を見た時、TNRをした時に感謝の言葉を伝えられた時、また、猫の交通事故や死亡事故の数が明らかに減っているという効果を知れた時、やってよかったですなって思います。

### ◆活動する中でこだわりはありますか

命を扱っているという意識を常に持つこと。捕獲して終わりではなくて、命を大事にする、守っているという思いでやっています。

### ◆活動されていて得た「学び」は何ですか

継続することで色んな人の協力を得て、繋がりの大切さを学び、協力してもらえるのが当たり前だと思わず、色々なことに対して感謝することが大事なんだなと思いました。

### ◆今後どういった活動を展開していくなど、予定はありますか

お金の使い道をより明確にするために、NPO法人になる予定です。（2022年2月現在はNPO法人化しています）そして、市民の意識を変えていきたいです。野良猫は野生動物ではありません。のために、学校にTNRの話をしに行きたいです。「1匹からのTNR」が当たり前になるのが目標です。



### お問合せ先

■ざまねこホームページ  
お問い合わせフォーム

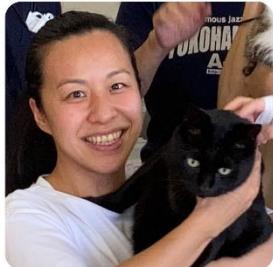


# 2010年代

[座間のわっか設立]

## おぎ なおみ 小木 直見 さん

ケアコミュニティ  
座間のわっか



ケアコミュニティ座間のわっかは在宅介護サービスを行う企業で、2017年に設立されました。「人と地域社会の懸け橋となり共に育む」を企業理念に掲げ、介護に関わらず動物の保護活動や、座間市社会福祉協議会の学習支援活動に加盟するなど様々な形で地域の方々との繋がりを作っています。事務所では猫を飼っており、道行く人がかわいがってくれたり、猫とあそぶためだけに立ち寄ってくれる人がいたりと、まさに看板猫です。

### ◆この活動を始めたきっかけを教えて下さい

会社を始める以前から地域のために何か役に立つ会社にしたいなということで、介護にかぎらない色々な活動とか人のつながりやすい空間作りや、未成年の方々に対する何か支援もできたらいいなということで始まりました。だからパーティとかして最初は全然勉強しなくていいよみたいなところから始まり、本当にただ来て猫と遊んで帰るとかあとはお腹が空いているから何か食べるために来るとか、私も勉強好きじゃなかったので目的がなくても本当にみんながふらっと立ち寄れる場所としてここがあればいいなという感じで。

### ◆活動する中でこだわりはありますか

会社をガラス張りにすることや、人の出入りがしやすい一階ということをこだわりました。またお互い時間は限られて生きてくなかでの目的とか違うけど、ここに寄ってくれたり関わってくれた人とのご縁はできるだけ捨てたくないです。そういうのは介護だけじゃなくてもやっぱり大事にしたいです。

### ◆活動されていて得た「学び」は何ですか

私の親は人に迷惑かけてはダメっていう人だったんですよ。だからあまり迷惑をかけないよう

にという責任感のなかでずっと生きてきたけど、わっかにきてから迷惑をかけないというのが自分で会社をやると無理なんです。基本誰かに動いてもらってなにかをしてもらわない回らないし、その中で自分が100%で全てをやるとしたらやっぱり無理で。でも、だからといって会社を止めようとはおもわないし、しょうがないんだなって思えるようになったかな。



### お問合せ先

- 住所：〒252-0011  
座間市相武台3-37-11
- 電話：046-283-6525



# 2010年代

[シニア麻雀クラブ・座間設立]

## こやま みちお 小山 理夫 さん



シニア麻雀クラブ・座間

シニア麻雀クラブ・座間は2017年に設立されました。麻雀ルールを学びながらゲームを楽しみ、参加することにより脳の活性化を促し、認知症予防対策及び健康年齢の維持・増進を目的としています。また、会員相互のコミュニケーションを図りつつ、地域福祉社会活動の一環として麻雀ボランティアの派遣を実施しています。未経験者でも参加しやすいように初心者・初級者向け「手習い塾」と、ゲームを実践しながら楽しむ中級者向け「麻雀道場」を月2~4回開催しています。 麻雀を通じて新たな仲間作り、健康年齢の維持・増進を図り、シニア世代の元気で明るい社会の構築に貢献する為、福祉施設における麻雀交流サロンへの麻雀ボランティアを派遣します。

◆この活動を始めたきっかけを教えて下さい  
高齢者の認知症予防、脳の活性化、居場所提供、生きる希望の提供、麻雀ボランティア活動、家族健康マージャンの普及のため、この活動を始めました。

◆活動の中で座間とはどんな関わりがありますか  
ボランティア活動は社会福祉協議会、活動拠点は座間市総合福祉会館、市内高齢者施設、公民館で行っています。ねんりんピックかながわ2022健康麻雀座間地区予選大会開催の実現過程において座間市社会福祉協議会、および神奈川県庁スポーツ課には多大なる支援を受けました。

◆活動をしていて、どんな時が幸せか教えて下さい  
「高齢者の居場所」を作ってもらい「ありがとう」と言われた時が幸せです。

◆人生で一番大切にしていることは何ですか  
前例踏襲に進歩なし。活力ある限り改革前進を大切にしています。

◆活動をしていて、または人生で挫折した事は何ですか。そこで得た学びはありますか

マージャンの社会的イメージを上げるため健康麻雀普及を鋭意努力中に「カケ麻雀」事件を起こされた時です。正当に麻雀を評価・理解してくれる人達も現実に多数存在することに勇気づけられました。

◆50年史の読者の皆様にひとと言あればお願ひします

現状に満足しないで新しい事に（何でもよい）挑戦、努力しましょう。小さな声も集まれば大きな声になります。若者の皆さんと共に挑戦、意欲を持っている市民が協働すれば「もっともっと住み良い座間」を作れるはずです。



### お問合せ先

■電話：090-1932-3060

■E-Mail：

seniormajozama@yahoo.co.jp



# 2010年代

[あすのち設立]

## みうら しづく 三浦 寧久さん



座間市立野台  
あすのち  
副代表

「勉強がむずかしいけれど、だれに聞いたらいいかわからない」「塾に行くお金はないけれど学びたい」「家や学校以外の居場所がほしい」「友だちやいろんな年齢の人と話したり遊んだりしてみたい」こんなとき、ちょっと年上の高校生や大学生、地域のおとなたちと、勉強したり遊んだりできる場所。それが"あすのち"です。神奈川県座間市と横浜市で「夕暮れ学級（学習支援・無料塾）」と「さつきプロジェクト（居場所）」を毎月4回ひらいています。小学生、中学生、高校生、16~19才（通信制高校生・定時制高校生・夜間中学生・不登校・高校中退・進学していないなど）は、だれでも参加できます。あすのちには、いつ来ても帰ってもOK。何回参加してもお金はかかりません。

### ◆この活動を始めたきっかけを教えて下さい

中学生の時、母子家庭だったのであまり経済的に余裕がなく、勉強したいけど勉強できる環境がない、塾に行けない、学校の先生にも聞きづらいという経験をしました。でも何とか公立の高校に合格して、高校に入学しました。その後同じような子どもたちに何かできることはできないかなと思って、無料の学習支援を始めたという感じです。（あすのち代表の回答）

### ◆活動をしていて、どんな時にやりがいを感じますか

常に感じています。自分自身が勉強したくてもする場所がないというところから始まった団体なので、自分にとっては地域の中に学べる場所があって、遊べる場所があって、ここで地域の人達と繋がっていく、子どもと子ども同士でもスタッフと子ども同士でもお互いに学びあう環境があるということ自体が自分にとって奇跡みたいなものです。本当にこの活動が続いているだけですごくやりがいを感じているし、うれしいなと思っています。（あすのち代表の回答）

### ◆活動をしていて、または人生で挫折したことは何ですか。そこから得た学びはありますか

一番大きな挫折は高校に行けなくなってしまったことです。学校にも行かず、家からも出られず、という状態になってしまいました。挫折した経験はすごい辛いし、ここから一生立ち上が

れないんじゃないかと本気で思ったけど、そこからでも這い上がるという経験ができたことが一番の学びなのかなと思います。

### ◆50年史の読者の皆様にひと言あればお願ひします

あすのちという場所があることをまず知ってほしいと思っていて、小中学生のみんなが行きたいと思えるような場所はきっとたくさんあるよっていうのを伝えたいなと思っています。



### お問合せ先

■E-Mail：  
[satsuki.yuugure@gmail.com](mailto:satsuki.yuugure@gmail.com)



# 2010年代

[雛まつり花公望  
社につどうアート開催]

## やまもとしゅうこ 山本修子さん



座間市座間  
座間神社

座間神社は古くから「相模の飯綱様」と親しまれ、もとは長野県の飯綱権現社が本社です。境内に続く座間公園は桜の名所で、大山・丹沢・箱根の山々を花越しに望める景観は絶品。平成10年には、座間名所八景のひとつに選ばされました。また、境内から眺める夕日の美しさは格別で「夕日の丘」と銘々されているほどです。ひな祭りに合わせたアート展は市内外のアート作家が出展する。昔ながらの段飾りやひな人形を活用し、七十七段の階段にひな人形一千体がならびます。

### ◆この活動を始めたきっかけを教えて下さい

何も無いところではなく、外の階段に飾ろうということが大きなきっかけです。千体以上のお雛様を飾るために、試行錯誤して、階段に一枚の赤い布を敷いたりと工夫しました。そして地域社会の人が輪を持つことにも繋がるのではないかと思いました。順番関係なく、お雛様の大集合という感じです。地域の人もみんなで集まってボランティアを楽しくやる、お雛様も集まって楽しく、見に来る人も楽しい。”輪”の楽しさの連鎖反応が起こればいいなと思います。

### ◆活動をしていて、どんな時が幸せか教えてください

みんなが笑顔になって、子供たちの歓声や、神社に収めた人が「うちのお雛様これじゃない?」と話していたり。そして、お雛様達がみんな仲良しなんです。みんながワクワクするということが嬉しいです。

### ◆今後どういった活動を展開していくなど、予定はありますか

『社につどうアート』というものをやっています。神社の中には沢山の素晴らしい作品があるのですが、座間のお雛様を見に来たら、座間の素晴らしいアートに出逢えて、その作家さんを好きになったり。そういう文化をもっと発展させていきたいと思い、アートを身近に感じて

いただきたいので、神社内にアートを展示しています。座間市も文化が発展していく街になって欲しいなという、これからのお望みです。お雛様を飾るだけではなく、そこから文化が発展して欲しいなと思っています。

### ◆活動されていて得た「学び」は何ですか

一人ではできないということです。みんなの力が必要です。人間一人では生きていけないという原点だと思います。人と人の繋がりを、人生で一番大切にしています。



### お問合せ先

- 住所：〒252-0027  
座間市座間1-34374
- 電話：046-251-0245
- Email：jinja@zamajinja.or.jp



# 2020年代

[座間市長就任]

## さとう みと 佐藤 弥斗 さん



座間市長

昭和45年2月、東京生まれ。座間市小松原在住。

★学歴・職歴（主なもの）：法政大学文学部中退。座間市議会議員（4期（15年10ヶ月在職））★社会活動：県立座間総合高等学校PTA会長。県立綾瀬高等学校PTA会長。座間市子ども会育成会連絡協議会副会長。座間総合高校学校評議員。さがみ野やすらぎの街づくり委員会顧問など★特技：剣道（2段）

★趣味：コーラス

### ◆座間市長を目指そうと思ったきっかけを教えて下さい

地域の課題について地域の皆さんと活動する中で、皆さんと一緒に声を上げる人が、地域の代表であった方がいいねというお話がありました。そのようなきっかけで、夫が市議会議員に立候補させていただき当選したのですが、2期目の選挙準備の時期に、夫が末期がんという診断を受けました。そのようなことがきっかけとなり、私が代わって立候補し、当選させていただきました。市議会議員の活動をする中で、夫と一緒に“こういう座間になったらいいね”という話をしてきたので、それを叶えていくには市長として取り組んだ方が良いという判断をしたため、市長に立候補させていただきました。

### ◆座間市長をされていて、どんな時にやりがいを感じますか

市民の方々とお会いした時に、皆さんが楽しそうに過ごしていたり、元気そうに過ごしている様子を見た時です。また、触れ合う中で“いつもありがとうございます”とねぎらいの言葉や感謝の言葉を伝えていただいた時、よかったです。あと当然ではありますが、市の職員の皆さんのがいい仕事をしてくれた時や、元気に楽しく仕事ができていると感じた時などです。

### ◆座間市長になって得た学びはありますか

座間市の職員さんは優しくて思いやりがあり、優秀でコツコツと真面目に仕事をする方が多いと感じています。また、市民の方たちも賢くて優しい方が多いと思っています。学びとしては、どの様な時も自分が進むべき方向にしっかりと焦点を当てて向かっていくことが一番大切な事だとつくづく感じています。周りの雑音に惑わされず何事も自分を成長させる為に起きていると捉えて、前向きに考え、常に自分を磨いていく事が大切なのだと思います。



（インタビューの様子）

# 編集後記

## “人”でつづる座間の50年史 制作日記

2021年5月

### ゆめの「学校」クリエイター・編集チーム結成

現在、学校を欠席している中学生を対象に、メンバー募集を行いました。4名の中学生で、チームの活動をスタート！この日から、基本的に毎週金曜日10～12時に活動。企画ミーティングを重ねたり、これから様々な方にお会いすることを想定して、名刺を作成したりしました。のちにインタビューをするときには、各自でデザインした名刺がアイスブレイクに役立ったりもしました。

### 各種SNSアカウント立ち上げ

SNSの活用が得意なメンバーを中心に、Twitter、Instagram、Facebookでアカウントを立ち上げました。HPと公式LINEアカウントの整備も開始！



2021年6月

### インタビュー講座開催

50年史を作成するための取材を開始する前に、インタビュー講座を開催！全員初心者でしたが、インタビューの基礎を学び、実演練習を経て、少しづつ自信がついていきました。講座終了後もワークの添削などを丁寧にしてくださった講師の雨野千晴先生、ありがとうございました！

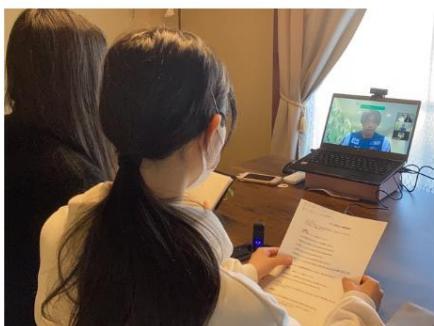


2021年8月

## インタビュー&記事作成スタート！

いよいよ、インタビューをしはじめました。第1回は、公園でのインタビューだったので、少し緊張が和らいだような気がします。回数を重ねるごとに、メンバーの役割分担もスマーズにできるようになりました。

インタビューが終わるごとに、録音したインタビュー音声をもとに文字起こしをして、記事の作成も行いました。Wordで文字を打ったり、Google ドライブでデータを共有したり、Canva（デザインアプリ）で記事を作成したりと、パソコンでの作業がメインだったので、操作にもだんだん慣れていきました。



情報収集や、インタビューさせていただく方への連絡方法を教えてもらうために、座間市役所市民協働課や、座間市観光協会に伺いました。観光協会では、職員さんがすぐに連絡してくださり、その日の午後にインタビューを実施させていただくことができました！職員の皆さん、ありがとうございました。

2022年2月

## オンラインイベントゆめの「学校」フェス 50年史の紹介コーナーに出演しました

この50年史作成に携わった中学生メンバーが、オンラインイベントの本番に出演し、活動の感想や学んだことをお話しました。また、事前に原稿を作成し、代読してもらう形で発表したメンバーも♪その感想の一部をこちらでもご紹介します！

まず一番に言えることは、本当にこの活動に参加して良かったということです。「敬語や表現が間違っていないか」「50年史はどう書いたら伝わりやすいのか」など、悩んだことや大変だったこともありましたが、それ以上に得たもの、学んだことが沢山ありました。

50年史作成にあたり、沢山の方にお話を聞かせていただいたのですが、皆さんに共通点があることに気が付きました。皆さんは「人との繋がり」をとても大切にされていました。今までなんなくしか理解できていませんでしたが、皆さんからお話を聞いて身をもって分かりました。1人では出来ないこと、出来なかったことをお話を頂き、「人との繋がりの大切さ」これが、今回活動した中で一番の学びです。インタビューを通して、自分の考え方方が変わりました。貴重な経験をさせて頂いたことに感謝致します。ありがとうございました。

（中学3年生 Moon）



50年史を作成をする中で大変だったことは二つあります。

一つ目は対面インタビューの時です。私は人見知りと緊張が激しいタイプなので、初めての人に会うのはとても大変で、しばしば貧血を起こしてました。けれど人の話を聞くことは好きだったのでとても楽しかったです。

二つ目はインタビューした音声を文字起こしをしてまとめることです。パソコンでまとめる作業は、インタビュー音声を聞きながらなので大変でした。またタイピングも早くできないのでさらに大変でした。

大変なこともたくさんありました。けどそこから助けてくれる人たちも沢山いるということも学びました。色々な経験が出来てよかったです。

（中学2年生 NEKO）



座間市制施行50周年記念市民提案事業  
座間市教育委員会後援

みんなの「こんな“授業”あったらいいな！」をオンラインで体験

50th Anniversary

### “人”でつくる座間の50年史 ゆめの「学校」フェス

プロの一眼レフカメラから見える世界  
ウォーキングクラブ  
ケーキ屋さん  
ターゲッター

スケッチで「見てみたい！」という声を多かった、アート作品を毎日更新します！  
詳しいは公式LINEアカウントを追加！

2022年  
2月26日（土）  
13:00～15:00

オンライン開催（Zoom）・参加無料（先着80名）

最新動画は  
ご当地キャラ！  
主催 IDEA (NPO法人) [idea.npo2020@gmail.com](mailto:idea.npo2020@gmail.com)  
申し込みはこちる

イベント当日の様子は  
こちら (YouTube) より  
ご覧いただくことができます



2022年3月

## 記事完成＆入稿！

文字の間違いがないか、大きさやバランスに間違いはないかななど、とても細かく、地道な作業が続きましたが、いよいよ記事の完成です！！印刷会社に入稿し、冊子になって届くのが待ち遠しいです。完成と同時に、座間市内全小中学校での配布と、市立施設（市役所、図書館、コミュニティセンター、子育て支援センター等）での配架を行います。

無事に市民の皆さんのもとに届きますように…☆

ご協力いただいたすべての皆さんに、心より感謝申し上げます

# 主催団体紹介

イデア  
NPO団体 IDEA

学校を休んでいる（不登校、登校しぶり、別室登校など）、  
または学校が合わないと感じているこどもや、  
その経験がある若者たち、及びその家族とともに、  
コミュニティ教育を実践することを目的とした非営利団体です。

## 団体概要

- ◆事務局所在地 神奈川県座間市南栗原4丁目
- ◆設立 2013年（2020年IDEAeducationより名称変更）
- ◆会員 7名（各活動ごとにボランティアスタッフを募る。最大約50名）



## 活動実績

- ◆ふあみりーフェス（2013年～2017年）  
不登校のこどもたちや経験者が企画運営に参加し、楽しみながら社会勉強をすることを目的としたイベント。子育て世代向けのハンドメイド雑貨、体験ブース、ステージ企画、託児等の開催。のべ1000人以上が参加。  
<座間・海老名・大和・綾瀬 各市・市教育委員会後援>

- ◆教育シンポジウム（2017年5月開催）  
文部科学副大臣の基調講演と、教育関係者によるパネルトークに、パネリストとして参加。  
<文部科学省・神奈川県教育委員会後援>

- ◆不登校関連セミナー（2013年～）  
「不登校の理解」「経験者が語る“不登校”」「お母さんのおしゃべり会」「先生のための解決力UPセミナー」等を開催。  
<海老名市・座間市教育委員会後援>

他、詳細はHPをご覧ください。



## 代表プロフィール

矢野 梢  
IDEAコミュニティスクール 代表



- 《経歴》 不登校支援教育歴14年
- ・技能連携校 専任教諭(中学社会・高校公民教員免許)
  - ・大和市立中学校・不登校支援員
  - ・海老名市立小中学校・心の教室相談員、別室登校支援員
  - ・東京ビジネス外語カレッジ非常勤講師
  - ・座間市発達支援親の会 ルミエール 運営事務局
  - ・海老名エールの会 外部顧問
  - ・まなびタネット運営事務局
  - ・玉川大学心の教育実践センター インターンシップ
  - ・座間市教育研究所 家庭訪問相談員

## 主な活動場所

IDEAコミュニティスクール  
座間市東原4-20-5  
相鉄線さがみ野駅 徒歩7分

## ホームページ



この度は、座間市制施行50周年という節目に、このような貴重な機会をいただきありがとうございました。

インタビューさせていただけた皆様は、本当に温かく、そしてフラットにメンバー全員に接してくださいました。活動を見学させてくださったり、資料を使って詳しい説明を加えてくださったりと、私たちの予想以上に協力してくださり大変パワーを頂きました。

私もインタビューに同行させていただいたのですが、何か「こと」を成し遂げたり、「場」をつくっている方々のお話は、大変学ばせていただくことが多く、人生の糧となるものばかりでした。このような貴重な学びの機会に、現在何らかの理由で学校を欠席している（いわゆる不登校の）中学生たちと一緒に参加することができ、本人たちにとってもかけがえのない時間になったことだと思います。

私たちは、平素より「理想の教育の探究と実践」という理念の下で、コミュニティ教育について考えたり、実践するための活動を行ったりしております。今回、まさに座間市という温かいコミュニティの中で、年齢や立場をこえて学びを深めることができたことは、団体としても今後の活動の大きな糧となりました。

座間市の50年間をつづる上で、お話を伺いたい方がまだ沢山いらっしゃいました。しかしながら、限られた時間の中での活動でしたので、諦めざるを得なかつたことが大変心残りでもあります。今回いただいたご縁を大切にするとともに、さらに多くの方々と交流を深めながら、座間市の子どもたちが「主体的に自立への1歩を踏み出し、幸せな人生を歩む力」を育むための教育活動に励んでまいります。

改めまして、読者の皆様、ご協力くださった皆様に心より感謝申し上げます。

主催団体 IDEA(イデア) 代表 矢野 梢

2022年2月20日 発行

編集 ゆめの「学校」クリエイター・編集チーム  
小日向琴美・東間結 他

写真撮影 橋爪武・小日向琴美 他

発行者 矢野梢 (IDEA代表)  
座間市東原4-20-5 IDEAコミュニティスクール  
idea.npo2020@gmail.com



企画・制作 IDEA  
イデア (NPO団体)